

商空間は日々変化を続けています。

こうしたことから、公益社団法人商業施設技術団体連合会では、団体会員の協力のもと、各界のプロを講師に招き、商業施設士資格者の皆さんをはじめ商業施設づくり・みせづくりに従事される多くの方々にお役立ていただく専門知識を充実させる講習会を、毎月1～2回開催させていただくことになりました。

演 題：

商業施設におけるDX

商業空間を「バージョンアップ」する

～IT業界から考える、空間の「完成」と「進化」～

IT業界から持ち込むキーワード：バージョンアップ・拡張

日にち：10月29日(木) 15:00～16:30

講習形態：オンライン（zoom）

受講料：無料

講 師：福田 幸一 氏

協 力：一般社団法人 日本ディスプレイ業団体連合会

〔講習会の参加申し込み方法〕

・・・申し込みはEメールをお願いします

1. 専用メールアドレス seminar@jtocs.or.jp へ
 2. メールの件名を「10/29 参加」とし、
 3. 本文に〔氏名〕〔会社名または学校名〕〔連絡先メールアドレス〕を記述のうえ、送信ください。（※商業施設士・商業施設士補の方は、登録番号を記述ください）
 4. メール受信後、自動返信メールを送信します。
- ・申し込み締め切り：10月19日・23:59まで
 - ・参加用 zoom・URL は、セミナー2日前頃にお送りします。

講演概要：

商業空間は、竣工したときに「完成」なのでしょうか。

私たち IT 業界では、システムを完成させ、本番稼働させたところから新たな仕事が始まります。実際の利用状況をデータとして捉え、当初の設計意図との違いや想定外を発見し、改善を重ね、システムを進化させ続けます。また、平常時だけでなく、障害や事故などの「異常時」をあらかじめ想定して設計することも、ITの世界では重要な考え方です。

では、この発想を「商業空間」に持ち込むと、何が見えてくるのでしょうか。

現在では、顔認証、属性・感情分析、人流・行動分析、設備異常検知、ドローン、防災情報などの技術によって、完成後の空間で「誰が、どのように利用し、何が起こっているのか」を、これまで以上にデータで捉えられるようになっていきます。

こうした技術を、単なる DX ツールの導入で終わらせるのではなく、設計した空間と実際に使われている空間の違いを知り、課題や想定外を発見し、改善し続けるために使えないでしょうか。そして、空間をつくった企業自身が竣工後も顧客に伴走し、その価値を高め続けることを、新たなサービスや事業へ発展させることはできないでしょうか。

本講演では、IT 業界における「要件定義」「正常系・異常系」「テスト」「ログ」「バージョンアップ」、そして顧客の現場に伴走する「FDE（Forward Deployed Engineer）」などの考え方を手掛かりに、商業空間の DX をあらためて捉え直します。

「空間をつくる」から、「空間を知る、育てる、進化させる」へ。

商業施設・ディスプレイ業界の皆様とともに、DX 技術そのものではなく、DX によってこれからどのような「新しい仕事」を生み出せるのかを考えます。

福田幸一 氏：

ネクストウェア株式会社 取締役 執行役員 営業統括 DX・AI 推進部長（兼）株式会社システムシンク 取締役 執行役員 営業本部長

＜おもな領域＞

AIソリューション（異常予兆検知・画像・生体認証・人流感情分析・空間理解・自律制御ドローンほか）、総合防災情報ソリューション、産業人材キャリアアップサポートシステム、シャドーAI対策、ランサムウェア対策 ほか

